

【第38号】

令和3年5月発行

白河地域在宅医療 拠点センター通信



一般社団法人 白河医師会
白河地域在宅医療拠点センター
副センター長 杉原常夫
〒961-0908
福島県白河市大手町 3-8 レジデンス楽市 I-105
TEL:0248-21-8923 FAX:0248-21-9267
平日 8時30分～17時15分 (土日祝日休み)

市町村担当者会議が開催されました

日時：令和3年3月17日(水) 13時30分～15時30分 場所：サンフレッシュ白河 参加者：27名

杉原副センター長の司会により、冒頭、関 元行拠点センター長(白河医師会会長)の以下挨拶がありました。
コロナの予防接種の現状のお話と各部会での検討内容を皆さんで意見を出し合い、4月からの事業がスムーズに行くようにお願いしますとの挨拶がありました。

続いて、白河市高齢福祉課主幹・課長補佐・地域包括ケア推進係長 佐藤圭司様より、①白河地域在宅医療・介護連携推進事業実施要項②白河地域在宅医療・介護連携協議会設置要綱③白河地域在宅医療・介護連携事業業務委託仕様書の締結について説明がありました。

杉原副センター長から白河地域在宅医療拠点センターの令和2年4月～令和3年3月までの(ア)～(ク)の内容報告がありましたが、今年度はコロナの影響で実施できたものが少ないと話されました。各部会(情報部会・相談窓口部会・普及啓発部会・連携・研修部会)に分かれ次年度事業内容を検討した後、それぞれの部会から発表がありました。



●情報部会 ガイドブック・白河地域在宅医療・福祉連携図・退院支援ルールについて話し合いを行う。

- ① ガイドブックの中身は、医療、薬局、施設と地域ごとに色分けされていて検索しやすいようになっているので、冊子の枠の所も色分けするともっと見やすくなるのではないかと。
- ② 白河地域在宅医療拠点センターの役割が表紙の裏に書いてあるが、もう少し分かりやすく記載された方がよいのではないかと。
- ③ 表紙のデザイン・レイアウトを考える。(分かりやすいものに)
- ④ ホームページに一般市民用と専門職用と入り口が2つにわかれていたのは知っていたが、ガイドが更新されるたびにホームページに掲載されるのであればよいが、2年に1回ならばパスワードが分かりづらいのもう少し皆さんに周知されるように考えてほしい。
- ⑤ 病院・医院はバリアフリーがあるか記載されているが、歯科は記載がないので時々聞かれることがあるので記載をお願いしたい。
- ⑥ 薬局情報で、薬を配達してくれるかどうか分からないので記載をお願いしたい。
- ⑦ 退院支援ルールがホームページによって対応が違うことがあるので、ルールのわかるものが欲しい。

●連携研修 MCS・研修会・担当者会議について話し合いを行う。

- ① MCSを利用したことがない方々がたくさんいるので、利用者の体験の場を増やしていく。
- ② 研修会の方法は Zoom・Web・視聴・集合と Zoom などのハイブリッドで研修会を行う。
- ③ 市町村担当者会議で次年度の計画・作成・時間・開催を決める。
- ④ 市町村担当者は時々拠点センターに出向いて話し合いを行う。

●普及啓発 ACP・出前講座・市民講演会について話し合う

- ① ACPという言葉は、なかなか一般の人には難しい言葉なのでもう少し分かりやすい言葉で表したらどうか。
- ② 一般の住民の広報・啓発としては、広報誌・チラシを活用した方が有効ではないか広報誌については市町村が発行している所にACPについて連載でお知らせをする。
- ③ ホームページはあるが代表の方しか見ないので、一般の方は意外と見ないので有効ではないと思われる。
- ④ 「コロナ」というテーマで、感染予防、対策などの講義・講演会なら施設職員も受け入れてくれるのではないか。
- ⑤ 市民講演会は5市町村まんべんなく開催してはどうか。人数などにはこだわらない。

●相談窓口部会 相談窓口・パンフレットについて話し合いを行う。

- ① 拠点センターが市民の方に浸透していない。
- ② パンフレットの設置場所ですが、市民の方が手に取りやすい所。(市役所・郵便局・銀行・病院・サロンに出向いた時・講演会の後)
- ③ 適宜に広報誌を利用し掲載してもらう。
- ④ レイアウトを変更し分かりやすくする。高齢者でも見やすいようにする。
- ⑤ パンフレットサイズの検討
- ⑥ 具体的にどんな事業をしているか内容を分かりやすくする。(写真・イラスト・まんが)



第48回ACPコアメンバーグループワーク

しらかわコアメンバーによるグループワークは、3月15日(月)16:30より白河地域在宅医療拠点センターにて開催されました。開催にあたり、拠点センターに前回より導入された自動体温測定器による検温と手の消毒を行い、感染症対策行い開催されました。

前回の自分の活動に対する振り返り(KPT法)で行ったまとめを行った後、それぞれ発表を行いました。

●Try: 2021年にやってみよう

- ① 「出前講座」に参加し、多くの方に ACP の活動や「もしバナゲーム」を広めたい。
- ② 院内 ACP カンファレンス・院内での活動を行っていききたい。
- ③ 2020 年の市民講演会と同様か、それ以上の規模の講演会を ACP のメンバーで行ってみたい。
- ④ 行政との MCS の連携を図れるようにしたい。
- ⑤ 第二回寸劇開催。今回は西郷地域を検討している。もう少しメンバーを増やしたい。
- ⑥ 行政の方と ACP について話し合い、理解してもらいたい。もしバナゲームを行ってみたい。
- ⑦ ポストコロナを見据えた新しい ACP 啓蒙の仕組み作り(オンライン・DVD)制作、配布。

※次回の課題、「私自身の ACP を考える」

(※)Keep: できたこと、続けたいこと Problem: できなかったこと、改善したいこと Try: 2021 年度でやってみよう



第49回ACPコアメンバーグループワーク

しらかわコアメンバーによるグループワークは、4月19日(月)16:30より白河地域在宅医療拠点センターにて開催されました。開催にあたり、自動体温測定器による検温と手の消毒を行い、感染症対策を行い開催されました。

前回の課題となっていた「私自身のACPを考える」について、もしバナカードから各自3枚のカードを選び、なぜ自分がそのカードを選んだのかについて参加メンバーひとりずつ説明を行いました。また、令和3年度の活動計画について副センター長より説明がありました。

市町村担当者会議が開催されました

白河地域在宅医療・介護連携推進協議会及び市町村(5市町村)担当者会議が4月22日(木)13:30よりサンフレッシュ白河にて開催されました。

センター長の関先生がコロナ予防接種対応により不在のため、杉原副センター長より挨拶がありました。

昨年9月に在宅医療・介護連携推進事業の手引きが改定されました。今まで8つの事業項目を中心に行っていましたが、今後は8つの事業項目に限らず切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築するため、地域の実情に応じ、取り組み内容の充実を図りつつPDCAサイクルに沿った組織を継続的に行うことによって本事業で目指す姿の実現に向けて事業を行って行くことになります。結果8つの事業項目から4つに再編成となります。3月17日に令和2年度事業報告をさせていただき、令和3年度の事業内容について検討してもらった内容をあわせた形の事業計画を後程発表させていただきますので、宜しくお願い致します。

在宅医療・介護連携推進協議会委員の任期は2年任期のため任期満了のため改選時期となっておりますが、全員再選とさせていただきますので、宜しくお願い致します。と述べられた後、センター長が不在のため、白河在宅支援診療所 穂積彰一先生より一人一人に委嘱状が手渡されました。

出 前 講 座

4月7日(水)あったかサロン南湖サロンにて開催



講師に笑いヨガティーチャー 白幡 文子 先生をお招きして、「笑いの健康教室」が開催されました。講座には、地域住民・サポーターの方々21名が参加されました。

冒頭、白幡先生より「皆さん一日のうち何回笑いますか？」との問いかけに対し、主に女性の方は回数が多く、男性の参加者は3回と少ない傾向にありました。その後、笑いヨガの起源・推移などが説明され、参加者全員で主に椅子に座り、実技とその効果などの解説が行われました。

今回は新型コロナウイルス感染防止の観点から、全員マスクをしての実技となり、表情の確認はできなかったものの、参加者全員で楽しく笑いながら45分の講座となりました。先生からは、笑いヨガはひとりでもできるので是非ご自宅で行っていかれるようにと話されました。

4月15日(木)あったかサロン上羽郷にて開催

講師に介護老人保健施設ひもろぎの園 施設長 風岡 都 先生をお招きし、地域住民・サポーターの方々14名が参加されました。講座は「みんなのリハビリ体操～運動の大切さを知る～」をテーマに、運動の効果や運動に大切な4つのポイント(頻度・強度・持続・時間)などについて話されました。「介護予防」とは“要介護にならないこと”=要介護状態の発生をできる限り防ぐこと(遅らせること)、いつまでも元気で生き生きと自立した生活が営めるようにすることが大切であると話されました。さらに、講座では自宅で手軽にできる運動について紹介があり、参加者全員で行いました。

